

# 俳優篇

## 映画文学人生論

056) 駅前旅館	監督：豊田四郎	出演：森繁久弥
057) 飢餓海峡	監督：内田吐夢	出演：左幸子
058) お早う	監督：小津安二郎	出演：東野英次郎
059) 午後の遺言状	監督：新藤兼人	出演：乙羽信子
060) しとやかな獣	監督：川島雄三	出演：伊藤雄之介

性格俳優とは劇中人物の個性をうまく表現できる俳優である

映画の俳優（役者ともいう）のはまり役について考えてみたい。たとえば、『青べか物語』に出演している五人。芸達者で名の知られている俳優だが、今はみんな故人になってしまった。

蒸気河岸の先生 森繁久弥 駅前旅館の番頭  
芳爺さん 東野英次郎 老サラリーマン  
おせいちゃん 左幸子 無知、単純な娼婦  
きみの 乙羽信子 山荘の老女管理人  
ささやん (伊藤雄之介 小悪党)

『青べか物語』で蒸気河岸の先生役の森繁久弥は、売れない作家としてもそれらしい味を出している。また、『小説吉田学校』では吉田茂を演じて、総理大臣らしい貫禄をみせているが、駅前旅館の番頭や道楽者の若旦那がはまり役だと思う。蒸気河岸の先生との狂言自殺で村人を騒がせたおせいちゃん役の左幸子は、『飢餓海峡』で無知で単純な娼婦を演じたかと思うと、『遠い一本の道』では自ら監督をつとめた。知性派女優だ。

狡猾な老人芳爺を演じる東野英次郎は、退職間際の会社員がはまり役だが、水戸黄門にもなる。

「控えおろう。この紋所が目に入らぬか」。

乙羽信子は百万ドルの笑顔の清純派？ 黙って忍従する女？「おら罪の意識ねえだよ」。



## 俳優篇

映画文学人生論

ささやんは、蒸気河岸の先生が釣りをするとこ  
ろへやってきて、「人は何によって生くるか」と  
問いかける初老の男だが、川島雄三監督の映画に  
は登場しない。もし登場させるとすれば、ささや  
んには伊藤雄之介が適役だと私は思う。

もっぱら脇役専門の性格俳優だが、やはり川島  
雄三監督によって同じ年につくられた映画『しと  
やかな獣』ではめずらしく主役を演じた。

「私はこの原作をみた時、作者不在ということ  
を考えました。この中に作者がいることは可能だ  
ろうか、と思いました」と川島は『青べか物語』  
について言っているが、作者は蒸気河岸の先生で  
ある。そして作者の影がささやんだ。

伊藤雄之介のような存在感のある俳優をささや  
ん役に起用して、蒸気河岸の先生と会話をさせれ  
ば、作者不在にはならないと思うが、脚本の新藤  
兼人はささやんの存在を消してしまった。もし私  
が脚本を書くとしたら、指もふれないうちに花嫁  
に逃げられて悶々とする五郎ちゃん（フランキー  
堺）を消し、ささやんを生かすだろう。

「文学と映画は違うんだよ」という小津安二郎  
の言葉を思い出した。「脚本を書いている時が一  
番楽しい。それを配役する段になってがっかりす  
る。現場で俳優を動かして見てもう一度がつくり  
と来る」。

役を知り己を知って散るさくら